

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401012
法人名	社会福祉法人 幸和会
事業所名	グループホーム なかよし
所在地	〒859-1107 長崎県雲仙市吾妻町牛口名373-2 (電話) 0957-20-0057

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年1月29日	評価確定日	平成21年2月23日

【情報提供票より】(H20年 12月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 4.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月6日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	島原保養院・安藤病院・土井歯科
---------	-----------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人母体となる病院に隣接する立地であり医療連携において、入居者、家族から安心と信頼を多く寄せられるホームである。同じく法人内のデイサービス施設、グループホームもあるため施設間連携もあり、合同行事もなされている。ホームとして建物は独立している為、家庭的で温かな雰囲気でありながら居住空間は車椅子の移動に十分な広さがとられ設備も整えられている。今年度は入居者の入れ替わりに加え、管理者の療養による不在といった変動があり、変化の中での学び、気づきが多い一年となったが、状況により十分果たせなかった目標への取り組みに関して新たな意欲をもっての再スタートに期待できる。現在介護度が低い入居者の方が比較的多いため活動的になっており、生活歴を活かしてその方らしい暮らしの継続と充実がなされるよう支援にあたって行きたいとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートを作成されているが、計画内容に対する評価がなされておらず改善へのプロセス、改善状況の確認がよくなされなかった。個人情報に基づいた配慮の点では同意書をとられており、地域とのつきあいにおいては出来る範囲でのアプローチを検討している。職員を育てる取り組みでは外部研修への参加を今後も検討、改善課題としている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	項目別に職員に振り分け各自記入し、フィードバックした上で管理者がまとめるという全員での取り組みがなされている。しかし、項目への理解が十分になされぬままの記入であったりと十分な活用がなされていない点も見受けられた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、家族代表、市役所担当職員、民生委員、管理者、職員を会議メンバーとして開催している。ホームの活動、入居者の状況報告がなされ会議メンバーからは、意見、助言、評価をいただいている。近々、地域消防団、警察署の方をゲストメンバーとして会議に参加いただき有益な意見をうかがうことが出来るよう予定している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	日常の面会時にも折に触れ意見をうかがい傾聴の姿勢に努めている。年4回開催していた家族交流会は、今年度は入居者の変化に伴い家族参加が減って年2回の開催に留まったが、家族間交流やホームの実際をみていただき意見聴取の機会として大切な取り組みと位置づけているため、次回開催に向けて兄弟、親戚と案内を広く出して参加を呼びかけていきたいとしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会は状況として難しい点がある為未加入であるが、散歩や買い物途中の近隣の方との挨拶から地道に顔なじみの関係を作り、交流に繋げていきたいと努めている。中学生福祉体験受け入れや、法人内のデイサービスへの園児訪問行事に参加するなどどちらかといえば受身の取り組みから、現在は自立度も高く元気な入居者も多いため、より活発に保育園の運動会に出向いて参加したいと希望し検討している。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な愛情と優しさを持ち、共に仲間として暮らします。」という文言のもとに、介護者として思いやりと信頼の上に立つ支援を目指し、同時に社会貢献を謳うことで地域密着型サービスとしての法人、ホーム理念を掲げている。また毎月の目標も決めて具体的に日々取り組んでおり、特に冬期の間「うがい、手洗いの励行」を挙げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の理念の掲示において日常的に念頭において支援に当たることはもちろん、月1回の法人内施設の管理者によるスタッフ会議においてもそれぞれの報告、反省の話し合いの中で理念に沿った支援を確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会は状況として難しく未加入ではあるが、散歩の途中の近隣の方との日常の挨拶から地道に顔馴染みの関係を作り、交流をひろげるべく努めている。中学生福祉体験受け入れ、法人内のデイサービスへの園児訪問行事に参加するという今までの受身の取り組みから、現在は自立度も高く元気な入居者が多いことから、より活発に保育園の運動会に参加したいと希望し検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、項目別に職員に振り分け各自で気づきを記入し、更に全員にフィードバックして管理者がまとめるかたちで全員で取り組んだ。改善計画シートも作成されているが、取り組みへのプロセスとして活用がなされておらず、スタッフ全員の自己評価に対する疑問にも説明が十分にはなされていない点があった。		全員で取り組まれている姿勢、意欲を十分に活かすために、自己評価への取り組みの準備として再度項目内容への理解を確認されることが望ましい。改善計画シートを含め、ホームの支援の質の向上の為のツールとして、スタッフ各自の日々の支援の振り返りがなされ新たな取り組みに実践的に活用していかれることに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、家族代表、市役所職員、民生委員、管理者、職員を会議メンバーとして開催している。ホームの活動、入居者状況報告がなされ会議出席者より意見、助言、評価をいただいている。近々、地域消防団、警察署の方を会議にゲストメンバーとして参加いただき、会議が有益なものとなるよう予定している。		

グループホーム なかよし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加いただいている行政担当職員は、年1回の異動があるため連携をとるまでに至らないのが現状であるが、今後はホーム単独の連携のみならず地域の事業者とのネットワーク活動をもって、地域行政に積極的に働きかけていきたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りにて写真を添えて入居者の日々の活動の様子、行事予定を伝えている。また個別の近況報告については面会時に口頭で、また電話で伝えたり、担当職員より気づきを手紙できめ細かく伝えるようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会を年4回開催し、交流と共にホームの様子を見学、支援についての個別の話し合いのほか、ホームへの意見聴取の場として取り組んできた。入居者の一人暮らしの方が多くなり、来られる家族のかたも少人数で固定されてきた状況から、今年度は年2回の開催に留まった。大切な取り組みと位置づけてきたこともあり、次回開催に向けて家族の範囲を広げて近在の兄弟、親戚にも案内を差し上げ積極的に呼びかけていこうとしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期異動が、法人内の施設・病院の病棟において行われている。マンネリ化を防ぎ、様々な職場で経験を積んで欲しいという法人の方針であるが、今年度は当ホームにおいては異動、離職もなく、入居者、職員共に安定している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年評価を受けて改善項目として挙げていたが内部研修が主体となっている現状は昨年とあまり変化がない。法人内研修及び月1回の会議内においてのホーム内の勉強会での取り組みとなっている。外部研修に関する情報提供はされているが、職員の参加は殆どない。		外部研修は、ホーム自ら改善計画シートに挙げておられるように「外に出て、視野を広げる」レベルアップの機会であり、ホームのサービスの質の向上につながる貴重な取り組みである。参加するにあたって障害となっている勤務体制における人的配置の問題を再度検討されて、具体的な研修計画を作成し、職員の意欲に働きかけながら取り組むことに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療法人系連絡協議会に加入しているが、情報入手が遅くなっていたため今後は窓口の法人事務局との連携を確認して是正したいとしている。昨年取り組みを始めた町内4事業所とのネットワークも、世話役となっていた管理者不在の状況から停滞しているが、改めて取り組みを前進し稼働していきたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人内病院、デイサービスからの入居が多く、各施設が隣接している為馴染みながらの入居が図りやすい。入居にいたるまでには見学はもちろん、体験入居もしていただいて納得しての利用につなげる支援を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>管理者が昨年春に病気療養の為ホーム不在の間、入院中の管理者のもとへ入居者、スタッフの写真を見舞いの折に持ってきてもらったと伺った。管理者は、ホームを離れている期間、これほど寂しく、また心の支えになっていたのかと「家族、家庭」として再認識し、嬉しかったと語られた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に本人、または家族の協力を得ながら思いや意向の把握に努め、その後は日々の関わりの中での気づきを状態の変化と共に把握し、その情報の共有に努めている。職員で情報共有ができる記録書式に関しては現在検討継続中である。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員担当制としており、本人、家族の意向、要望を考慮して担当者を中心に全員で話し合い計画作成をおこなっている。計画書は家族へ説明を行い、同意の署名、捺印をいただいている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは半年に1回、変化があった場合は随時見直しを行っている。担当者を中心に全員でモニタリング、プランの修正をおこなっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内のデイサービスにおいて合同の行事などの交流がある。また併設の病院でリハビリを受けることもできる。福祉移動美容室を利用して、ホームにいながらにして整った設備で理、美容のサービスが可能な為、喜ばれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他科受診に関しては、緊急を要する以外は家族対応をお願いしている。かかりつけ医が母体法人の病院である方がほとんどで、併設しているため医療連携においては安心が得られている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところ重度化、ターミナルに到る時点で病院へ入院となるケースが殆どである。昨年暮れの事例においても、家族、ホーム、医師との話し合いを重ね、ホームとしてはターミナルケアに対しての受け入れの意向を持っていたが、最終的に医師の判断により家族も了承し入院となった。三者による話し合いを重ねながら今後も見極めていくとしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	地域の商店、学校、警察署にホーム通信を配布しており、個人情報保護に基づき同意書を得て配慮している。日常の言葉かけに関してはことに留意し、職員間でも注意しあうことで入居者の尊厳を損ねる支援にならないように徹底を目指している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になることがないように、買い物、散歩など希望に沿って随時できる限り対応している。一日を入居者本位に、それぞれのペースに沿って支援できるよう限られた人的配置のもと努めている。		

グループホーム なかよし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングの円卓や炬燵で職員も共に和気藹々とした雰囲気の中楽しく食事の支援がなされている。食事の下拵え、後片付けもできる方が積極的に携わっておられる。来月から月に1回、土曜または日曜の昼食の献立を入居者に考えていただき、職員と共に買出しにも行っていただき、共に調理していただくことを計画しており、より食事に対する楽しみ、生活歴を活かす喜びへの支援に努めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は2箇所あり、どちらも利用可能であり、毎日の入浴希望に応えている。時間も希望によって柔軟な支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の殆どの方が縫い物をよくされている。雑巾など小物縫いを始め、自身の衣類の補正や、他の入居者の古くなった毛布をひざ掛けなどにリフォームしたり、リビングのソファのほころびを繕ったりとホーム内で力を活かしていただいている。食事の支度、洗濯物たたみなどの家事や晴雨表の記録などそれぞれの役割を担い楽しみとして生き生きと過ごされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの商店への買い物や散歩、法人内デイサービスへの訪問など日常の外出支援がなされている。冬期の3ヶ月を外して年間を通し1ヶ月に1回は季節に応じたドライブなど遠出の外出支援がなされ入居者に喜ばれている。現在、形態食などの支援を必要とされる入居者がおられないこともあり、外食の機会を予定し楽しんでいただきたいとしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠されていない。現在外出傾向の強い入居者がおられ、安全に配慮してやむをえずリビングの掃きだしやサッシ窓に二重ロックをつけている。職員の見守りによる支援はもちろん、ホーム隣接の法人施設、病院職員の見守りも得られている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立会いのもと火災避難訓練を行っている。法人母体病院と隣接の為、災害時の連携をとられている。今後は地域協力を仰ぐため、地域消防団との連携に取り組んでいきたいとしている。		

グループホーム なかよし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人母体である隣接の病院指導により栄養バランス、量に配慮された献立が作られている。現在はキザミなどの形態食、疾病による制限食の対応はほとんどない。水分摂取には十分に配慮しており、バイタル表でのチェックがなされ入居者各自に500cc入りペットボトルに常時お茶を用意して、リビング、居室内においてもこまめに水分をとっていただくようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチン、食堂、畳の間を含めたリビングの空間は大きく取られた掃きだしのサッシ窓から注ぐ日差しで明るく、窓外の風景もよく見えて開放的な印象である。居心地の良さは終日食堂の椅子やソファで寛いだり、家事の手伝いに勤しまれる入居者の穏やかな表情から伝わる。手作りのカレンダーや、よく手入れされた観葉植物の鉢植え、テーブルの上に活けられた金柑の枝(入居者の自宅よりいただいたもの)が温かさを添えていた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、洗面台が備えられている他は入居者の持ち込みによる家具、調度品により整えられている。タンスなどの衣類の収納のほか、仏壇、思い出の写真の掲示など「その人らしさ」が部屋毎によく伝わる支援がなされている。		